

日本数学会教育委員会からの報告

【教育委員会】

日時:2017.9.24 12:00~13:30, 場所:岡山大学津島キャンパス一般教育棟 D 棟 3FD33 教室, 出席者 16 名. 議事の概要は以下のとおりである.

1. 教育委員会委員長の交代と 2018 年度教育委員の自己紹介

牛瀧委員が 2018 年 7 月付で委員長への就任に伴い, 委員会に先立ち挨拶が行われた. 副委員長には, 伊藤仁一委員 (椋山女学園大学) と佐野委員 (山形大学) の 2 名に依頼することで承認された. なお, 桑田委員 (東海大学) の加入に伴い, 参加者全員の自己紹介を行った.

2. 次回シンポジウムについて

現行のセンター試験が 2019 年度をもって終了し, 2020 年度から大学入学共通テストが始まる. 本番のテストに先立ち, すでに 2017 年 11 月に大学入学共通テストの試行調査が行われ, 2018 年 11 月には 2 回目の試行調査が行われる. このようなタイミングの中, 2019 年 3 月の年会での教育委員会主催シンポジウムとして「大学入学共通テスト」をテーマにしてはどうかと委員長から提案があり, 審議の結果, 承認された. シンポジウムでの講演者との交渉や日程等については, 委員長に一任された.

委員会終了後, 大津起夫先生 (大学入学センター 試験・研究統括官) と岡本和夫先生 (大学改革支援・学位授与機構顧問) に, 講演依頼を委員長から行ったところ, ご快諾をいただき, 日程調整の結果, 2019 年 3 月 20 日 (水) 午後にシンポジウムを開催することとなった. このため, 次回委員会も 3 月 20 日に行う.

3. 理数系教育問題連絡会の報告

5 月に開催された 2018 年度第 1 回理数系教育問題連絡会に出席した海老原委員が委員会欠席のため, 預かった原稿をもとに委員長が報告を行った. 高等学校次期学習指導要領に向けた他学会の活動の様子が報告された.

4. 大学入学共通テストについて

高橋委員から昨年の 11 月に行われた「大学入学共通テスト試行調査」についての話題提供があり, 問題の特徴や正答率などについて委員で共有した. また, 次期学習指導要領のもとでの 2024 年度からの大学入学共通テストについても意見交換があった. 大学入学共通テストに対して提言を行なってはどうかという意見も出た.

5. その他

- ・今後は可能な限り教育委員会シンポジウムの際に写真を撮って、HPに掲載することで、様子を発信して行くようにする。
- ・学習指導要領告示のように学会員に関係の深い教育ニュースについては、数学会のニュースレターを活用して、学会員にもアナウンスする。
- ・ほぼ毎回、教育委員会ではシンポジウムを行なっているが、その別バージョンとして数回に1回は、数名に教育事例やFD活動などを発表してもらい、事例発表・情報交換の場を作ることも模索したい。単科大学などの勤務で他の事例を知りたい人、数学研究者が少ない大学勤務で情報交流したい人などにとっては、意味があることと考える。

【教育委員会主催シンポジウム】

日時：2018.9.24 14:00～16:30

場所：岡山大学津島キャンパス 自然科学研究科棟 2階 大講義室兼大会議室

今回の教育委員会シンポジウムは「次期学習指導要領から数学教育を考える」というタイトルで教育委員会伊藤仁一副委員長の司会で行われた。

まず開会にあたり小菌英雄 日本数学会理事長が挨拶に立った。その後、牛瀧文宏教育委員会委員長が趣旨説明を行い、主に次期学習指導要領が高校や大学に与える影響について説明を行なった。また、キーワード検索による現行と次期、二つの学習指導要領の比較も話題にした。

今回のシンポジウムの講演者は文部科学省初等中等教育局視学官 長尾篤志先生1名で、「次期学習指導要領について」というタイトルで70分間のご講演をいただいた。次期学習指導要領は変化(情報化やグローバル化など)への積極的な対応を見通して作られている。「何ができるか」や自主・自立を重んじたものになっている、といった点がまず説明された。続いて、現状の小中高生の算数・数学上の課題が様々な調査の結果をもとに説明された。こういった点を踏まえて、次期学習指導要領の中身についての解説が行われた。お話いただいた項目は、小学校算数科と中学校数学科の学習指導要領に関しては、その改訂の基本的な考え方と主な変更点。高等学校数学科学習指導要領に関してはより多くの時間を割き、その目標、科目区分、科目の性格、科目の内容、統計的な内容について。そして、次期学習指導要領の特徴である、「育成すべき資質・能力の明確化」「主体的・対話的で深い学びの実現」「カリキュラム・マネジメントの実現」についてであった。

後半は、長尾氏に大阪大学 宇野勝博 教授(教育委員会元委員長)、岡山県井原市立高等学校校長 梅田和男先生を加えた3名のパネリストのもと牛瀧委員長の司会でパネルディスカッションが行われた。宇野氏からは大学側から見た学習指導要領への意見が、

梅田氏からは高等学校側から見た学習指導要領への意見が述べられた。後者の話からは、課題学習が数学 I, II, III の全てに導入されることへの不安（授業内容、授業時間、準備時間の確保など）、パソコン等の活用が随所に書かれてはいるものの、それだけの設備等の整備が追いついていない現状などが聞かれた。また、会場からも多くの意見や質問をいただいた。例えば、「大学入学共通テストの構成が現在のセンター試験同様数学 I,A と数学 II,B となると、数学 C に移行する『ベクトル』を文系の生徒が未習となることが考えられ、大学教育に影響が出る」という指摘があった。これに対し「大学入学共通テストについてはまだ決まっていない。試験が数学 I,A と数学 II,B で行われるとは限らない。理想を言うと、将来のことを考えて入試がなくても必要なものは学ばせることが大切であって、進路指導と出口指導は異なる」といった回答がなされた。

今回のシンポジウムには、130 名程度の参加がありこの話題についての関心の高さが伺えた。なお、教育委員会のウェブサイト

<http://mathsoc.jp/comm/kyoiku/sympo/2018sep.html>

では当日の様子を写した写真も公開している。また一部ではあるが資料も掲載されているので興味のある方はダウンロードしていただきたい。

文責 教育委員会委員長 牛瀧文宏